MATSUE DREAMS 2030　2030年の松江のあるべき姿

松江市

MATSUE DREAMS 2030

2030年の松江のあるべき姿

MATSUE DREAMS 2030

基本構想

8年前、あなたは
どこで、なにをしていましたか。

今から８年前。

あなたは何歳でしたか？

どこで、なにをしていましたか？

叶えたい夢はありましたか？

松江のまちは、あなたにとってどんな場所でしたか？

今のあなたは、８年前に描いた未来を生きていますか？

8年後、2030年の
自分を想像してみよう。

未来の「松江のあるべき姿」をみんなで考えました。

約2,000人の方々にお話を聞きました。

2030年、「松江のあるべき姿」を考えるため、
ミライソウゾウ会議、タウンミーティング、ゆめアンケートを通じて、
約2,000人の方々に「未来の松江の姿」についてお聞きしました。

「チャレンジ」「つながり」「夢を実現できる」「多様性」「幸せ」「楽しい」などなど。
そこには“十人十色の未来”と、
松江市民として大切にしたい価値観が表されていました。

私たちは、
未来へ向かって、自分自身のありたい姿を描き、
その実現に向けて力強く歩みを進めていきます。

松江にしかない強み

私たちの「あたりまえ」のなかにあるもの

宍道湖、中海、日本海、堀川など豊かな水辺をもつ「水の都・松江」。
中核都市として便利な暮らしがある一方、自然に恵まれた美しい景観、
古来からの祭りや伝統行事が脈々と受け継がれ、
人と人とが支えあう温かいコミュニティが息づいています。
私たちの「あたりまえ」には、国内のみならず
世界の人々をひきつける魅力にあふれています。

世界有数

プログラミング言語「Ruby」

世界で使われるプログラミング言語「Ruby」の開発者が暮らす松江は、「Rubyの聖地」と言われ、国内外からIT技術者たちが集まってきます。

Ruby City MATSUE

日本一

宍道湖のシジミ

宍道湖産シジミは漁獲量日本一を誇り、全国の漁獲量の4割以上を占めています。

絶景

宍道湖の夕日

雲が湧き、日暮れとともに刻々と表情を変える宍道湖の夕景は、市民のほか多くの芸術家にも愛されています。

世界

「佐陀神能」(ユネスコ無形文化遺産)、神在月に「神在祭」が行われる
佐太神社

日本海

神在祭

松江しんじ湖温泉

嫁ヶ島

宍道湖

来待石

美肌の湯として知られる
玉造温泉

節分祭
豆まき神事

鑽火祭

古代には出雲国で最も社格が高い神社
熊野大社

名勝・天然記念物

佐太大神の出生地といわれる
加賀の潜戸

国宝

松江城天守

明治維新後、解体の危機に瀕していた「松江城天守」。地元有志の努力により買い戻され、市民の力でその雄姿が今に伝えられ、2015年に国宝に指定されました。

大山隠岐国立公園

朝日山

国宝
松江城天守

枕木山

嵩山

堀川

●島根県庁
●松江市役所

不昧公が広めた
茶の湯文化

日本一

牡丹の生産量日本一
大根島

中海

大橋川

鼓行列

元祖

日本で初めて「前方後方墳」とされた
山代二子塚古墳

「黄泉の国」への入り口があるとされる
黄泉比良坂

星上山

日本最古の大社造
神魂神社本殿

国宝

世界

松江から世界へ

国内外で活躍するプロスポーツ選手、感動をもたらすアーティスト、笑いと元気を届けるエンターテイメント。ここ松江から、世界の人々を魅了する逸材が生まれ、育っています。

えびす様の総本宮
美保神社

唯一

出雲国風土記

『出雲国風土記』は、733年に完成。ほぼ完本の形で今日に伝わる全国で唯一の「風土記」です。同時期(712年)に完成した日本最古の歴史書「古事記」でも、この地が多く取り上げられています。

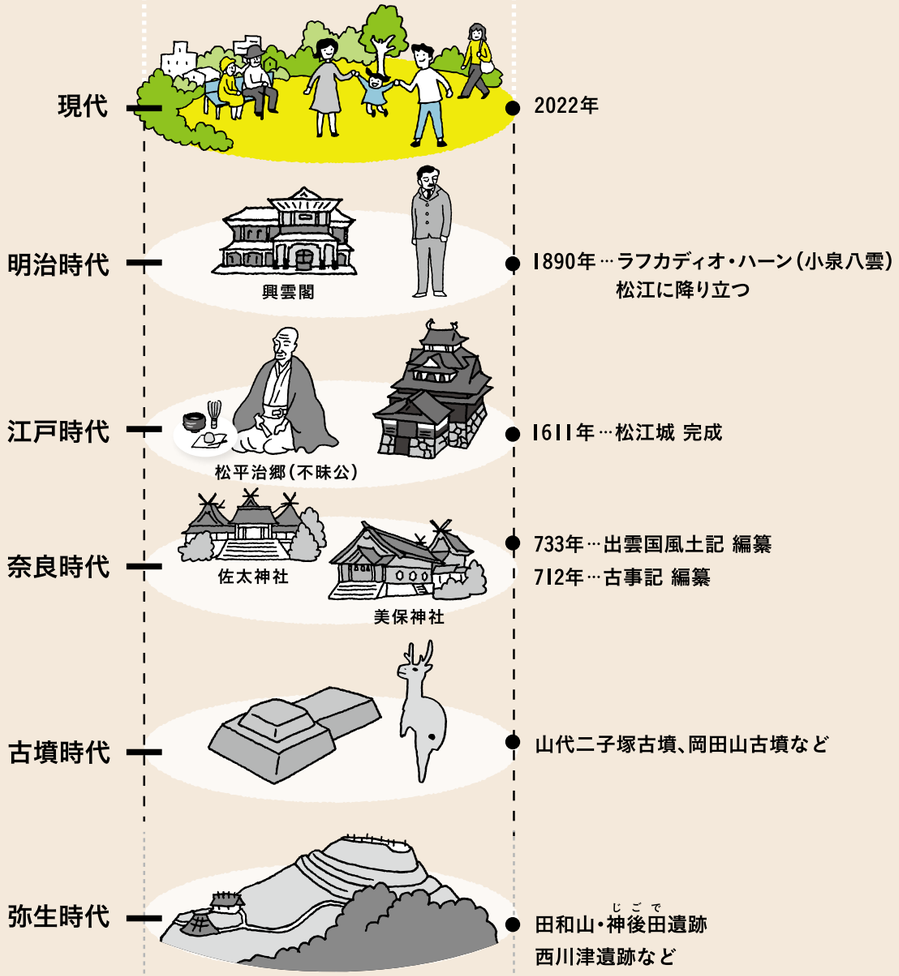
唯一

神在月

旧暦の10月は「神無月」と言われますが、私たちの暮らす地域では「神在月」と呼びます。
これは、全国の八百万の神々が出雲の国に集まって来られるという伝承に基づくものです。

強みを活かし、あるべき姿に向かう｜基本理念｜

松江のジダイをつくる



新しい《時代》を築く先駆者となり、古からのバトンを《次代》につなごう

この地は太古以来、多くの人々が住み続け、栄えてきました。
江戸時代には、堀尾吉晴が城と城下町を築き、「松江」という名前がつきました。
松江藩松平家七代目藩主　松平治郷（不昧公）は
藩政改革に取り組みながら、「茶の湯文化」を極め、
後世に裾野の広い伝統文化を残しています。

明治時代、松江の魅力を世界に発信したラフカディオ・ハーンが表現した
「オープン・マインド」は、広く異文化を受け入れる大切さを伝えています。

松江には、人と自然と歴史がつながる暮らしがあります。
地域資源を生かし、新しい文化を生み出す、柔軟な発想と風土があります。

そして今、デジタル化が進み、
世界中のだれもとつながり、発信できる時代になりました。

私たちの可能性は広がっています。
松江には、たとえ失敗しても受け入れてくれる人の温かさがあります。

松江のジダイをつくる

市民も、NPOも、企業も、行政も手を携えて、新しい《時代》を築く先駆者となり、
先人から受け取ったバトンを、しっかりと《次代》につないでいきます。

松江のあるべき姿　|将来像|

夢を実現できるまち
誇れるまち　松 江

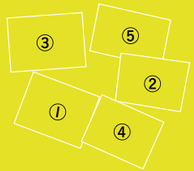
Realize our dreams, be proud of Matsue

「夢」は特別なだれかのものではありません。
新しい自分に出会う瞬間は、みんなに訪れます。

私たちが考える「夢を実現できるまち」とは、
あらゆる立場の人が、少しの勇気と好奇心をもって
「新しい未来」に踏み出せる場所であり、
それをたたえ、受け入れる社会です。
そうした文化が根付くとき、確かな「誇り」が芽生えます。

松江が「夢」と「誇り」にあふれ、
暮らす人々がしあわせを感じるとき、
松江はこの国の、そして世界の「希望」になります。

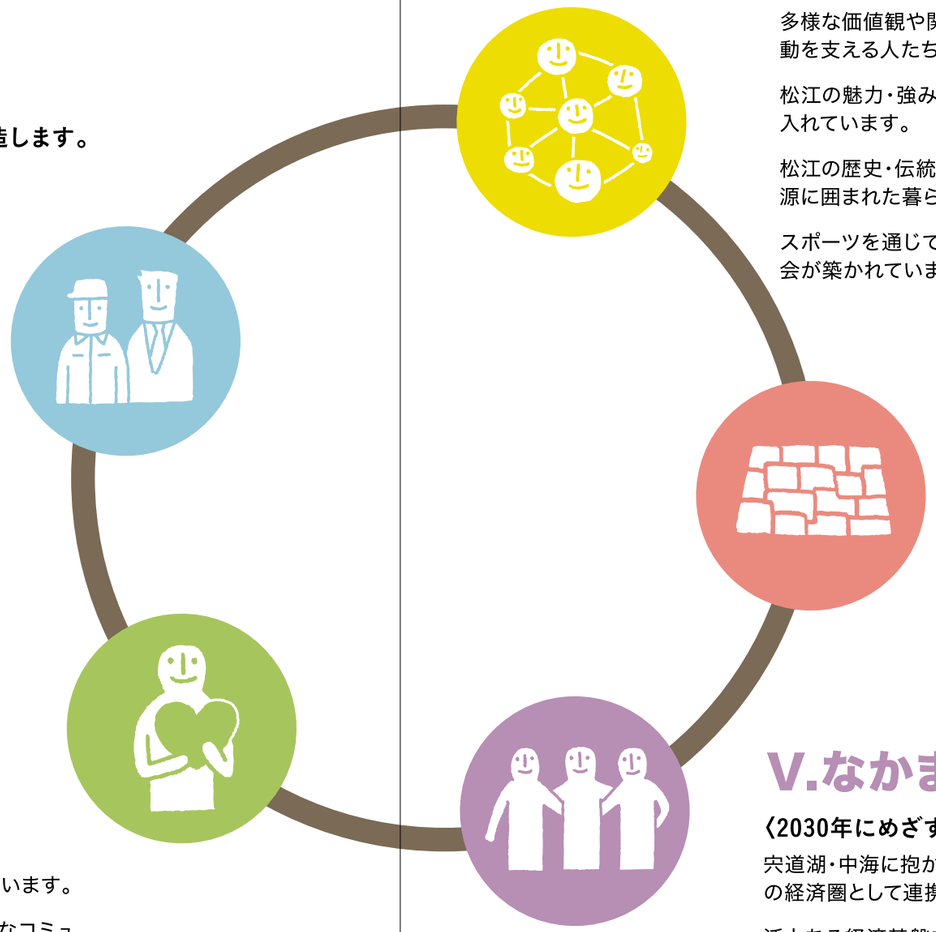
①しごとづくり「職人商店街の様子」　②ひとづくり「子どもたちが学びを楽しむ様子」
③つながりづくり「スポーツを楽しむ人々の様子」　④どだいづくり「水辺に親しみ、にぎわう様子」　⑤なかまづくり「圏域の交通ネットワークが充実する様子」



将来像を実現し、新たな松江のジダイをつくる

5つの柱

私たちは、松江のあるべき姿＝将来像を実現するために、
松江の強みを活かす5つの柱（基本目標）を掲げ、松江のジダイを創造します。



I.しごとづくり

〈2030年にめざす姿〉

松江発のユニークな事業や産業が誕生し、起業・創業に挑戦する若者が集い、いきいきと活躍しています。

まちなかに個性的・魅力的な商店が集まり、市民や観光客がまち歩きを楽しんでいます。

四季折々の新鮮な農産品や魚貝が食卓を彩り、市民の豊かな暮らしを支えています。

「国際文化観光都市・松江」の魅力が世界の人に伝わって、松江ファンの輪が拡がり、リピーターでにぎわっています。

II.ひとづくり

〈2030年にめざす姿〉

子育て・教育環境が整い、だれもが「松江で育ってよかった」「松江で育ててよかった」と感じています。

子どもたちが将来の夢や希望を描き、「生きる力」を身に付けています。

個性が尊重され、だれもが思う存分活躍できるとともに、多様なコミュニティが形成され、市民活動や地域のつながりが大切にされています。

III.つながりづくり

〈2030年にめざす姿〉

多様な価値観や関わり方を尊重しあい、地域づくりや地域の経済活動を支える人たちのサイクルができています。

松江の魅力・強みが注目されて、企業の拠点・UIターン者を多く受け入れています。

松江の歴史・伝統・文化・芸術に親しめる環境が身近にあり、地域資源に囲まれた暮らしを市民が楽しんでいます。

スポーツを通じて健康な心と身体をつくり、明るい希望の持てる社会が築かれています。

IV.どだいづくり

〈2030年にめざす姿〉

市民の健康を支える医療・福祉が充実しています。

地球環境に配慮した「松江発」の取組により、世界に誇る「SDGs未来都市」が誕生しています。

まちや水辺に人々が集い、利用しやすい公共交通が確保され、社会資本の整備と地域防災力の強化によって、まちの安心・安全が保たれています。

市役所の手続きがとても便利になり、市民のための市政が進められています。

V.なかまづくり

〈2030年にめざす姿〉

宍道湖・中海に抱かれた5つの市がそれぞれの強みを持ち寄り、一つの経済圏として連携を図ることで、新しい価値が生まれています。

活力ある経済基盤を築くとともに、脱炭素社会の形成に向けた環境対策、高速交通網の整備など、圏域の共通課題を5市が一体となって解決しています。

豊かなジダイをつくるために

2060年に人口18万人をめざします。

国勢調査によると、松江市の人口は、2000（平成12）年の211,564人をピークに減少を続けています。このまま松江に暮らす人が減り続けるとどうなるでしょうか。

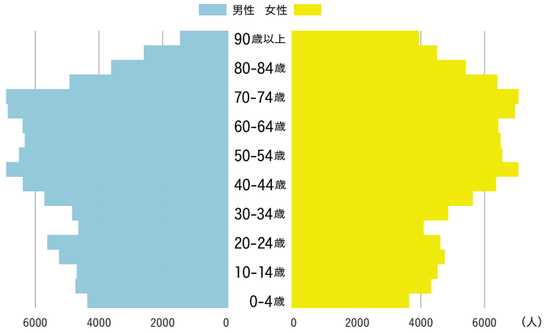
環境負荷の低減などのメリットもありますが、産業や地域活動の担い手不足、学校・病院・商店の減少、これらに伴う税収の減少など、マイナス効果が懸念されます。

将来にわたって安定した市民生活を維持するため、若い世代の人口増と出生数の回復を図り、バランスが取れた年齢構成への移行をめざします。

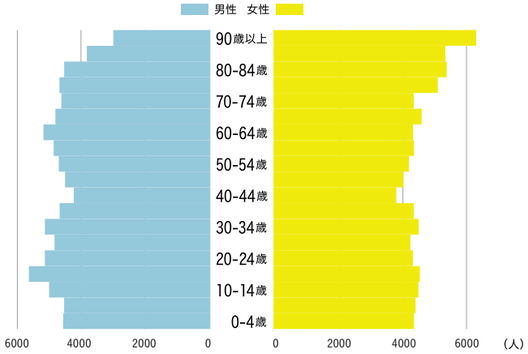
持続可能な年齢構成の実現にむけて、2060年の目標人口を18万人とします。

本総合計画がターゲットとする2030年の目標（人口ビジョン）は、右ページのとおりです。

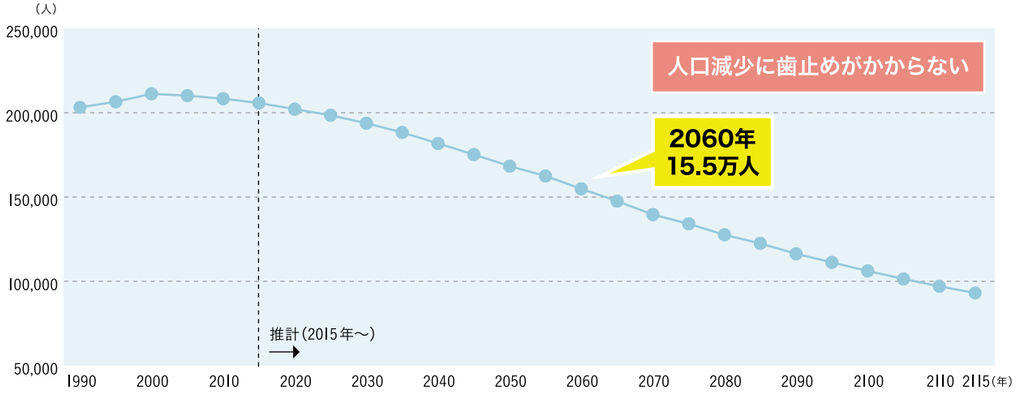
2020年松江市の人口



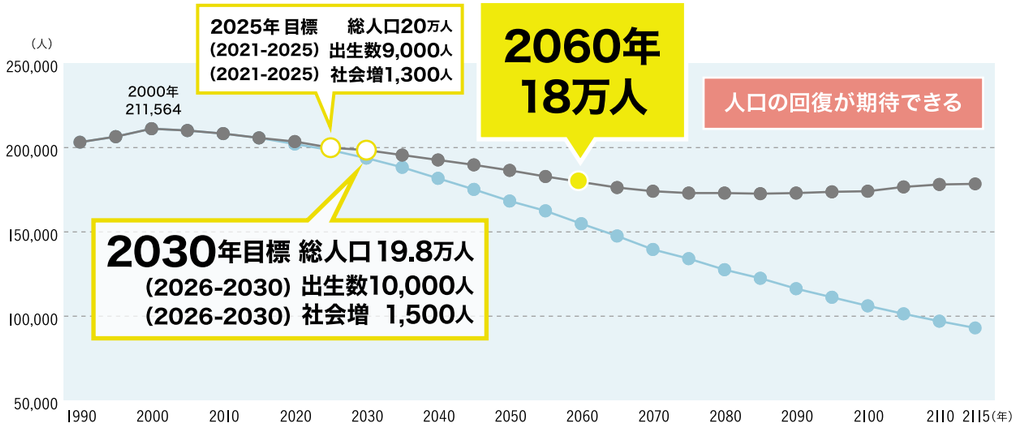
《2060年松江市の目標》



国が示す松江市の将来推計人口



《松江市人口ビジョン》



今後は、5年おきに目標となる数値を設定し、検証を行っていきます。検証の詳細については、別冊を参照してください。

将来のまちのかたち

新たな時代に対応したまちづくり

松江市の将来像「夢を実現できるまち 誇れるまち松江」をつくるためには、どのような「まちのかたち（都市構造）」が相応しいのでしょうか。

本市では、高度経済成長期の1968（昭和43）年に「都市計画法」が制定されたことを受けて、1970（昭和45）年に市域の一部に市街化を図る区域と、新たな建物などの開発を制限する区域に区分した土地利用制度（いわゆる線引き制度）を定め、自然環境と調和したコンパクトでまとまりのある市街地を形成してきました。

しかし、人口減少社会へと変遷するなかで、この土地利用規制によって若者やUIターン者の住まいが確保できない、企業誘致を阻害しているなど、市街地周辺地域の衰退を招く要因になっているとのご意見も聞こえてきます。

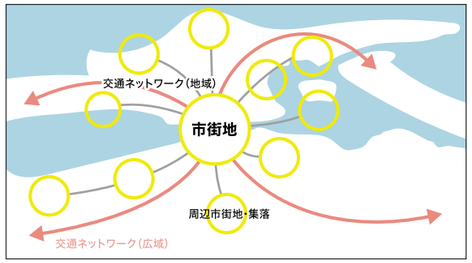
また、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大は、人々の意識の変化、働き方の多様化、デジタル化の促進など、私たちの暮らしに大きな影響を及ぼし、企業においてもリスク回避の観点から地方への拠点分散の動きが見られます。

このように、時代が大きく変化するに当たり、改めて「まちのかたち」と「土地利用制度」を議論する時期を迎えています。

「まちのかたち」の考え方 ～市域内のバランスのとれた発展～

「まちのかたち」は、本市の将来像をつくるための土台となるものです。

将来にわたって生活に必要なサービスを維持し、市全体を持続可能なまちとするためには、「一極集中によるコンパクトシティ」ではなく、「市域内のバランスのとれた発展」が求められます。そのために、市街地や集落などの既存コミュニティを交通などでむすぶ「コンパクト・プラス・ネットワーク」（※）の形成をめざします。



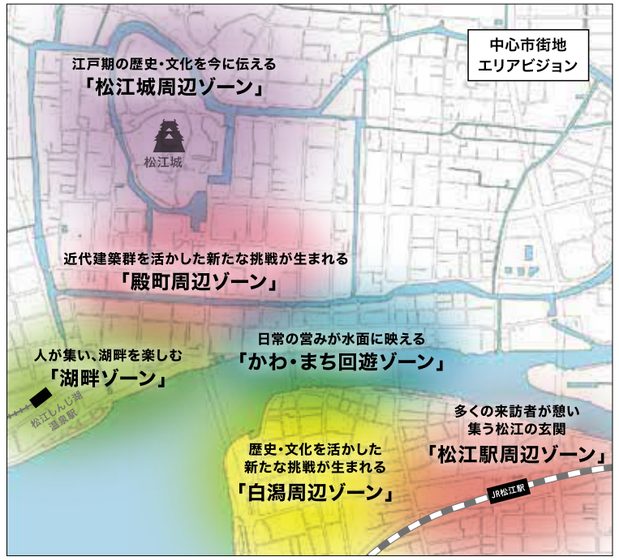
コンパクト・プラス・ネットワークのイメージ

※コンパクト・プラス・ネットワーク…医療・福祉施設、商業施設などの生活サービス機能や住居が一定程度まとまって立地し、住民が公共交通等によりこれらの生活サービス機能にアクセスできるまちづくりの考え方。

中心市街地の再生

市域全体のバランスの取れた発展のためには、核となる中心市街地の役割が重要になります。

松江駅から松江城に至るエリア（いわゆるL字ライン）について、「中心市街地エリアビジョン」を策定して中心市街地の魅力向上を推進してまいります。



今後の土地利用制度の考え方

「まちのかたち」をつくる手段となるのが土地利用制度です。

これまでの制度を検証し議論を重ねたうえで、2022（令和4）年度末を目途に、土地利用制度の考え方を決定します。

未利用公有地の活用

市街地における未利用公有地については、エリアビジョンとの整合を図りながら、魅力向上につながる活用を検討してまいります。